

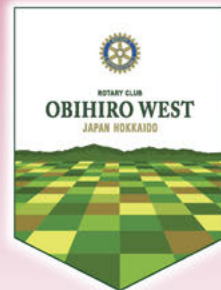


帯広西ロータリークラブ

第2261回例会

会報

2019.2.13



■RI第2500地区テーマ■

行動するロータリー、つながるロータリー
～ロータリーの未来を考えよう～



■クラブ・テーマ■

常識を疑い、可能性に挑戦する

帯広5ロータリークラブ・芽室ロータリークラブ・音更ロータリークラブ 合同例会

帯広RC 第3606回例会 帯広北RC 第2934回例会 帯広西RC 第2261回例会
帯広東RC 第1644回例会 帯広南RC 第1255回例会 芽室RC 第2793回例会
音更RC 第1196回例会

総合司会 帯広RC 大野 SAA
講師入場 先導 帯広RC 長澤 副会長
点鐘 帯広RC 和田 会長
開会宣言 帯広RC 大野 SAA
ロータリーソング「奉仕の理想」
ビジター紹介 帯広RC 大野 SAA
ゲスト紹介 帯広RC 和田 会長
東京麹町ロータリークラブ ロータリー情報委員長 藤谷護人様

スのツネさんとミネさん」、120ページありますがプリントアウトしまして拝読いたしました。ガバナーが仰るとおり、ポリオ撲滅にロータリー活動の殆どを費やして最後はインドの風土病にかかり、相次いでお亡くなりになられました山田ツネ会員と峰英二会員のお二人の人生ドラマに、私も大変心が熱くなるのを覚えました。

大変お恥ずかしいのですが、私も今までポリオプラスプロジェクトは、RIが行っている奉仕プロジェクトの一つという認識しかございませんでしたが、日本から、東京麹町ロータリークラブから世界的な事業になったという事を、その時改めて認識した次第であります。

キャリアのあるロータリアンには釈迦に説法かもしれませんが、近年入会された会員には、その経緯について是非この機会にご理解頂きたいと存じまして、昨年、これまでに一面識もない東京麹町ロータリークラブ新保雅敏会長さんに、今回の件でどなたか講師としてお話し頂けないでしょうか、お手紙を出させて頂きました。するとロータリーの友情と言いましょ、直ぐに飯島幹事さんから快くご了解のご返事を頂き、最適任者をご紹介致しますとの一報でありました。

その方が本日此処にお出で頂いております、東京麹町ロータリークラブ・ロータリー情報委員会委員長で弁護士の藤谷護人先生です。皆さん、限られたお時間の中で藤谷先生に全ての事をお話し頂くのは難しいと思いますが、どうぞお聞き漏らしのないように、じっくりとご拝聴頂ければと存じます。

会長報告 帯広RC 和田 会長

今日は、7ロータリークラブ合同例会に多数の会員の皆様にご出席頂きましてありがとうございます。ホストクラブの帯広RC会長和田賢二でございます。



皆さんは入口でご覧になりましたでしょうか。会場ロビー内に、昨年11月22日から1週間帯広市役所の市民広場で行いました、市内5RCの共同事業「世界ポリオ撲滅パネル展」で展示しましたパネルの一部を展示しております。今年度RIバリー・ラシン会長の「ロータリーの奉仕活動を地域社会にもっと広めよう」という方針に沿って行いました事業です。

今日は逆に我々ロータリアンが、ロータリーが行っている奉仕活動についてもっと学ぶ機会になればと思ひまして、このようなプログラムを企画致しました。

昨年度の成瀬ガバナーが、公式訪問で帯広クラブへ来られました際に、『ポリオプラスは東京麹町ロータリークラブの会員の想いと行動力から、世界のロータリーの事業として広がり世界125か国35万人と言う非常に多くの人々を救いました。東京麹町ロータリークラブのホームページの回想録を是非、読んでみて頂きたい。ポリオ撲滅に命を賭したロータリアンの情熱と信念を引き継いで頂きたい。』と熱くお話しされました。

早速私も、ホームページよりこの「思い出草-ポリオプラ

会務報告 帯広RC 外崎 幹事

- ①・帯広西RC、2月14日（木）の例会は2月13日の繰下げ例会と致します。
- ・帯広北RC、2月15日（金）の例会は2月13日の繰下げ例会と致します。
- ・帯広南RC、2月18日（月）の例会は2月13日の繰上げ例会と致します。



会長 佐藤 聡 副会長 内海 仁司 会場監督理事 田中 耕吾 発行：広報委員会
幹事 小谷 典之 副会長 渡部 省一 プログラム委員会理事 谷脇 正人 委員長 菊池 俊博 (副)松田 貴史



②帯広西RC、移動例会開催のご案内

日時 2月21日(木) 午後0時30分

場所 介護老人施設あかしや

③帯広北RC、創立60周年記念式典・祝賀会開催のご案内

日時 2月22日(金) 午後4時受付
(式典4時30分、祝賀会6時より)

場所 ホテル日航ノースランド帯広

④第6分区IM(都市連合会)開催のご案内

日時 3月9日(土) 午後1時30分

(受付:1時より)

(終了) 午後5時

場所 ホテル日航ノースランド帯広

- ・基調講演14:00~15:00
RI第2500地区ロータリーパストガバナー
成瀬則之 様
- ・特別講演15:10~17:00
フリーアナウンサー
和久井薫 様

◆プログラム

【講師経歴紹介】

国際奉仕委員会
帯広RC 井上 国際奉仕委員長

演題：『山田さん、峰さんが切り拓いたポリオ撲滅への道～ロータリー精神の鑑～』



東京麹町ロータリークラブ ロータリー情報委員長 藤谷護人 様

私が東京麹町RCの先輩である山田彝(つね)さん、峰英二(ひでじ)さんの活動を調べるきっかけとなったのは、私が麹町RC幹事するとき、地区パストガバナーの浅川さんから聞いた話だ。浅川さんは若いころ、山田さんとガバナー事務所で一緒に仕事をしていたという。RIは1978年の東京国際大会で3H計画を決議。81年に山田さんが3H計画のボランティアで南インドにいかれた。87年春先に二人が5回目の奉仕活動を終えて成田空港に着いて、たまたま浅川さんと出会った。山田さんは顔色が悪く、「どうも二人ともインドの風土病に罹ったみたいだ」と話したという。私は、その話を聞いて、お二人はポリオ撲滅のために大変なことを、凄まじいことをやられたと感じた。それからずっとお二人の活動記録を追いかけている。山田さんは88年7月に64歳で、峰さんは翌年に69歳で亡くなられた。二人が亡くなられた8年後ぐらいに麹町RCが「想い出草」という本を作った。それを読み込んで、これを複製することから始めようと考えた。

RIのポリオ撲滅運動の一番最初は、79年9月29日、フィリピン政府とRI会長が600万人の子どもにポリオワクチンを接種する合意書を交わしたこと。だが、そのままではRIの活動がポリオ撲滅にはいかなかった。85年2月、RIがポリオプラス計画を決議し、委員会を設置した。ポリオに焦点をあてた大きな決議だった。この動きに関与し、動きを形作ったのが山田さんと峰さんだ。

山田さんは、81年の最初の南インドでの活動で、両手両足が萎えて蛇のように這う少年と出会い、その姿が胸に焼き付いて離れなかった。帰国後、麹町RCで「こんな人が世界に一人でもいる限りは、私たちは幸せとはいえない」と訴えた。麹町RCはWCSプロジェクトとして「ポリオ撲滅運動」を決議する。82年には山田さん、峰さんを南インドに派遣、100万円分のワクチンを接種しようとしたが失敗した。ポリオワクチンはマイナス20度以下で保管しなければならない。しかも取り出してから2~3時間で効力がなくなる。ポリオ撲滅推進にはワールドチェーンが必要だということで、麹町RC、2580地区、2750地区が一緒になって冷凍設備をインド各地に設置する動きに切り替えた。RIに対しても働きかけた。山田さんと峰さんは、ポリオ撲滅の熱い思いを持ってインドで1カ月間、説得して回った。二人の活動が1985年のRIポリオプラス計画決議、88年のRIとWHOによる世界ポリオ撲滅推進活動につながった。二人は、82年、84年、85年、86年と南インドに入った。当時、世界のポリオ患者の三分の二がインドだった。86年の訪問後、冷凍設備の整備が進まず、生ワクチンが効力を失い子どもたちが死んでしまう現状を見て、山田さんは「こんなことがある限り、本当の意味での世界平和はない」と麹町

RCの会報に書いている。

86年に山田さんは、地区ガバナーを出していた那覇西ロータリークラブを訪問して、力を貸してくれるよう頼んだ。これを受けて大宜見さんと大仲さんが88年にインドで奉仕活動を行っている。86年当時は世界で約50万人のポリオ患者がいた。88年にRIとWHOが世界ポリオ撲滅推進活動を始めるが、当時の患者数は35万5千人。2530地区パストガバナーの関場さんがインドでの生ワクチン接種ボランティアを開始したのが2001年。2014年に南アジア地域・インドでポリオフリーが宣言される。世界の患者数は352人に減った。2018年はパキスタン、アフガニスタンの二カ国50人。

昨年、東京麹町ロータリークラブ50周年記念でお二人の功績を振り返るパネルディスカッションを催した。出席した浅川さんによると、山田さんは当時、ゼロックスのアジア地域支配人で、父親は文化人類学者で小説家のきだみのるさん。峰さんは医者で、海軍の潜水艦軍医の経験があり、「自分の命はもらったようなもの」と話していた。山田さんは謙虚な方だったが、ポリオに関しては「人間の最低限の尊厳を守るため、世界中のロータリアンが責務として取り組み必ず撲滅しなければならない」と熱く語っていたという。ポリオがゼロになったらノーベル平和賞の候補だとの声を耳にするが、浅川さんは「最初に井戸を掘った人の苦勞を忘れてはいけない。平和賞を受賞したらお二人の墓に報告に行く」と語っていた。

那覇西RCの大宜見さんは、87年に沖縄を訪れた山田さんが「悲惨な子どもたちの状況を解決できるのはロータリアンだけだ」と熱弁を振るっていたのが忘れられないそうだ。88年にインドを訪問したとき、行く先々で「ツネとミネは元気でやっているか」「二人が私たちにひかりを与えてくれたんだ」と声をかけられた。当時の「血がたぎるような世界社会奉仕への思い」が、ロータリー生活や人生の大きな土台になったという。2580地区パストガバナーの戸田さんは、お二人は試行錯誤と草の根で現場から切り開いていく方法論を実践しようとして取り組まれていたと語っていた。

私自身、お二人に深く触れて、インドでのワクチン接種活動に参加した。2時間で200人余りに接種した後、自分の中に何とも言えない幸せ感が生まれたのを実感した。「奉仕をさせていただく」という幸せの気持ちだろう。お二人のことを知って得たこの気持ちを基にして一生懸命励みたい。

謝辞
閉会宣言
点鐘
講師退場

帯広北RC 白井 会長
帯広RC 大野 SAA
帯広RC 和田 会長
先導 帯広RC 長澤 副会長